



佐々木史子

東京・なの花保育園

待機児解消は認可園の建設で

「安心子ども基金」で第二園建設の
とりくみ

「きれい」「本当にうたのとおりだね」。キャンプファイヤーの燃え上がる炎を見て子どもたちの感激の声があります。

今年で六回目になる合宿に年長のたいう組がお泊りに出かけました。昼食は野外炊飯のカレー作りに挑戦。ザリガニつりや泥んこ遊びをして楽しみ、夕食後はキャンプファイヤーを囲んで、子どもたちや職員たちのパフォーマンスと歌や踊りを楽しみました。翌日お父さんやお母さんにあてた絵は

がきは、みんなの楽しい思いが伝わるあたたかですてきな絵で、私たちもしあわせな気持ちになりました。

**子どものもつ
豊かな可能性を大切に**

なの花保育園は、江戸川区瑞江に二〇〇三年九月に開園しました。ゼロ歳児から五歳児まで六七名の定員で、一三時間開所しています。二階建て園舎ですが、園庭はありません。近所にある公園に毎日のように散歩に出かけ、

プールは屋上にセットします。

かざられた広さで、屋上で稲を育て、二階のテラスでは野菜作りをしています。「甘い！ おいしい！」と、野菜のもつパワーを学び、給食をみんなで食べたり、保護者を招待して野菜パーティーを開きます。

今年の三月には、第七回卒園式を終え、卒園生はのべ七〇名になりました。卒園生のみなさんのお力添えもあり、「卒園生の会」を発足しました。

近年の待機児童の増加や、保育園が

駅から近いという利便性もあつてか、昨年は保育園見学者が一〇〇名を超えました。見学者からは、長時間保育やアレルギー食などの希望があり、また、募集人員の少ないことに落胆される方も多く、保育要求に応えることのできない力不足を痛感しています。

認証や認可外保育園の保育料が高いこともあつて、認可保育園増設の希望が年々増加し、保育要求の高さを改めて認識しています。

江戸川区の保育の状況

江戸川区は人口約六七万人（二〇一〇年六月一日現在）。東京都二三区で女性の平均年齢（二〇〇九年一月一日現在）は最も若く、合計特殊出生率（二〇〇八年）は最も高くなっています。

これまで区立保育園は区独自の保育方針からゼロ歳児保育を実施せずに、

家庭福祉員制度で二〇〇人近い保育ママさんがゼロ歳児保育を行ってきました。

また、区立保育園の民営化は、私立保育園、幼稚園の経営者などで構成する社会福祉法人「えどがわ」が一手に引き受け、現在一一園を運営しています。

区内には、認証保育園も多くありますが、待機児もゼロ〜二歳児で四二八名（二〇〇九年一〇月）で、二三区の名かでは八番目に多い区です。

なの花保育園は、三〇年近くゼロ歳児保育を行ってきた「はこべ」と「たけのこ」の共同保育所が合同で建設した保育園です。

共同保育所は職員と保護者ががんばって支え、運営してきましたが、公的な保育制度にのっとった形で若い人たちに保育園を引き継ぎ、ゼロ歳児から五歳児までの一貫した保育を行いたいと考えていました。

そんなときに、江戸川区内の共同保育所五園の保育士たちが集まって、当時全国保育園団体連絡会会長だった故・横田昌子さんをお呼びして学習会を開きました。

そこで、保育をめぐる国の情勢と、大阪の保育園建設の経験を学び、「待機児解消を国が取りくんできている今なら取りくもうと思いました。」

なの花保育園の建設に向けて

まず、「はこべ」と「たけのこ」の共同保育所関係者が中心となり、「認可保育所をつくる会」を組織しました。そして江戸川区に交渉に行きましたが、当初は本気だと思ってももらえず、「一億円ほどなければ無理。お金は集められるのか」と言われてしまいました。

けれど、二〇〇一年に神戸で開催された第三三回全国保育園団体合同研究会で、迷いながらも全国のみなさんの

前で保育園建設の決意表明をしたことや、卒園生や地域の方々の励ましと後押しで決意を固めることができました。

土地探しははじめていましたが、歩道や信号の位置、土地のまわりの環境の変化、親子がいっしょに通園する姿などを考えて検討したため、見つかるまでに時間がかかりました。けれど、当時は区内に国有地があり、駅から三分ほどの国有地を取得することができました。

二〇〇二年一〇月に社会福祉法人の花会を設立し、翌年九月になの花保育園を開園しました。実際の自己資金になる土地の取得費と法人の設立資金を含み、一億一〇〇〇万円を募金で集め、福祉医療機構からも三四〇〇万円を借りいれました。

一億円を超える資金作りは到底考えられるものではありませんでしたが、たくさんの方々の協力を得て無事に集

めることができました。

「安心子ども基金」を使って二園目の建設

二〇〇九年四月、江戸川区私立保育園園長会で待機児童解消などを目的とした国の「安心子ども基金」の説明と提案がありました。

「安心子ども基金」の対象事業には、民間保育園の創設・改築などが含まれ、総額約二七〇億円が予算化されました。江戸川区としてもこの制度を使って待機児童解消を進めるため、保育園の建設などを希望する法人を募るといふ説明を聞きました。

社会福祉法人の花会では、二〇〇八年に、中葛西にあるたんぼぼ共同保育所から社会福祉法人の花会に、分園か姉妹園に出来ないかという相談があり、具体的な検討を始めていたころでした。

そんなとき「安心子ども基金」のこ

とを知り、たんぼぼ共同保育所や、法人理事会とも検討し、保育園の建設をするなら、建築費の八分の七が補助される「安心子ども基金」の制度を活用する以外ないと建設に取りくむ決意を固めました。

場所はたんぼぼ共同保育所のある葛西地域と決めて、その範囲で、一か月間は適当な土地を探すのに費やしました。しかし、国有地や都有地はみつからず、民間の土地を購入するしかありませんでした。

土地を購入する前に、本当に補助が出されるのかを江戸川区に聞きに行きました。すると、区からは「待機児童が多いので区内のどこでも保育園を建設してほしい。土地を購入することなので、法人として建設する意思が固いことが判断できる」との回答だったので、国の予算が確定する前まで不安はありませんでしたが、社会福祉法人として土地購入資金を銀行から借りいれ、

募金を集めて、二〇〇九年七月に八〇〇〇万円の土地を購入しました。それと同時に保育園の設計も進めました。

土地取得には補助金がでない！

二園目建設の総費用は、土地購入費八〇〇〇万円と建築費（設計費など）約一億七五〇〇万円の計二億五五〇〇万円です。そこに建築費補助が一億三四〇〇万円余と、銀行と福祉医療機構から三〇〇〇万円ずつを借ります。

また、法人から二〇〇〇万円、募金四〇〇〇万円が概略予算になります。

しかし、建設費は補助されませんが、土地の取得費は補助の対象ではないため、自己資金の大半は土地資金にまわってしまいます。土地の貸与なども自治体や国の積極的な援助があれば、社

会福祉法人などが保育園建設をもっと進めることができると思います。

その後、既存の法人保育園であることもあり、なの花保育園建設のときと比較しても、準備は順調に進みました。

五月二十八日には入札も終わり、七月着工の予定で、二〇一一年四月の開園をめざしています。

新しい保育園は三階建て、ゼロ歳児から五歳児まで一二名ずつで七二名の定員になります。子どもたちを真ん中に保育園と保護者が手を取りあい、ともに育てともに育ちあう保育園の理念の実現をめざし、江戸川区内で成長できるようにがんばっていききたいと思えます。

公的保育の拡充を！

今、国は、「待機児童解消のため」とうたって保育制度を変えようとしています。地域のお父さんお母さんたちの声からも明らかのように、待機児童

解消には、何よりも認可保育園の増設が望まれています。

介護保険を手本とする保育制度改革を許すわけにはいきません。この制度が導入されれば、保護者は自己責任で保育園を探さねばならず、子どもたちは保育時間によって保育料が変わるため、これまでのような保育を受けられず、保育に格差が生まれてしまうでしょう。

今こそ、私たちの保育園が「地域の財産」となれるようにがんばっていきたいと思います。

今回の保育園建設によって私たちの力量を高め、公的保育を求める力を大きくすることにつながると確信しています。